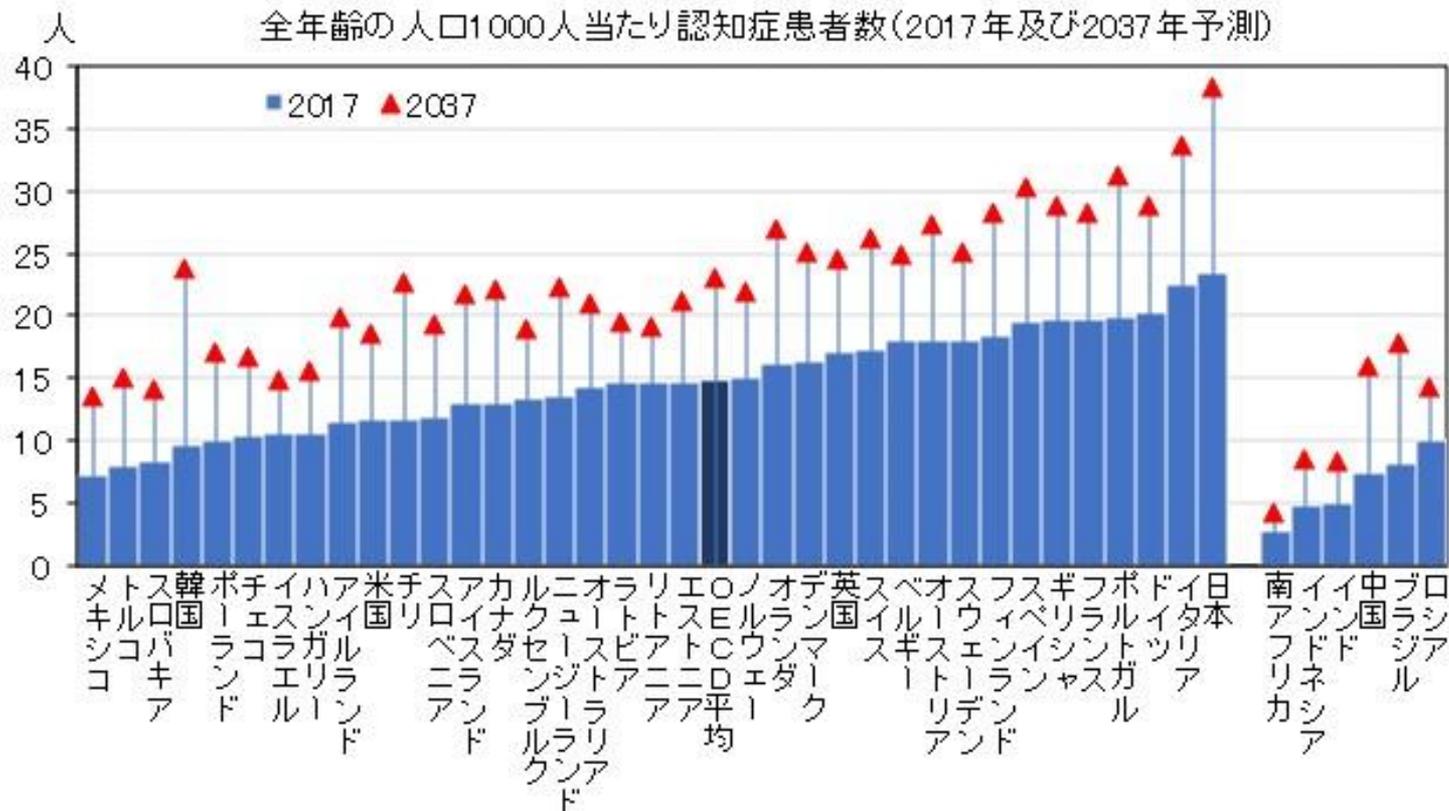


認知症の国際比較

認知症の国際比較

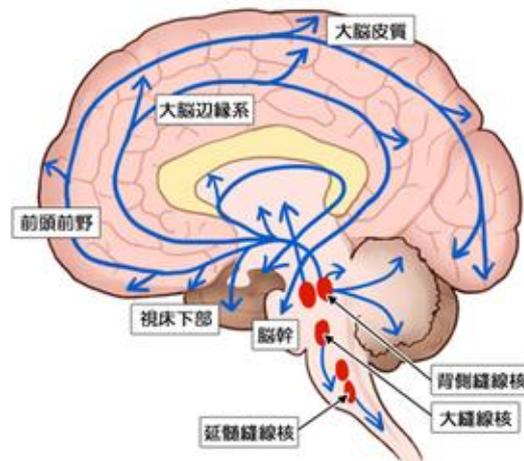


(注) OECD (2018), Care Needed: Improving the Lives of People with Dementiaによる。

(資料) OECD, Trends Shaping Education 2019, Figure 4.3.

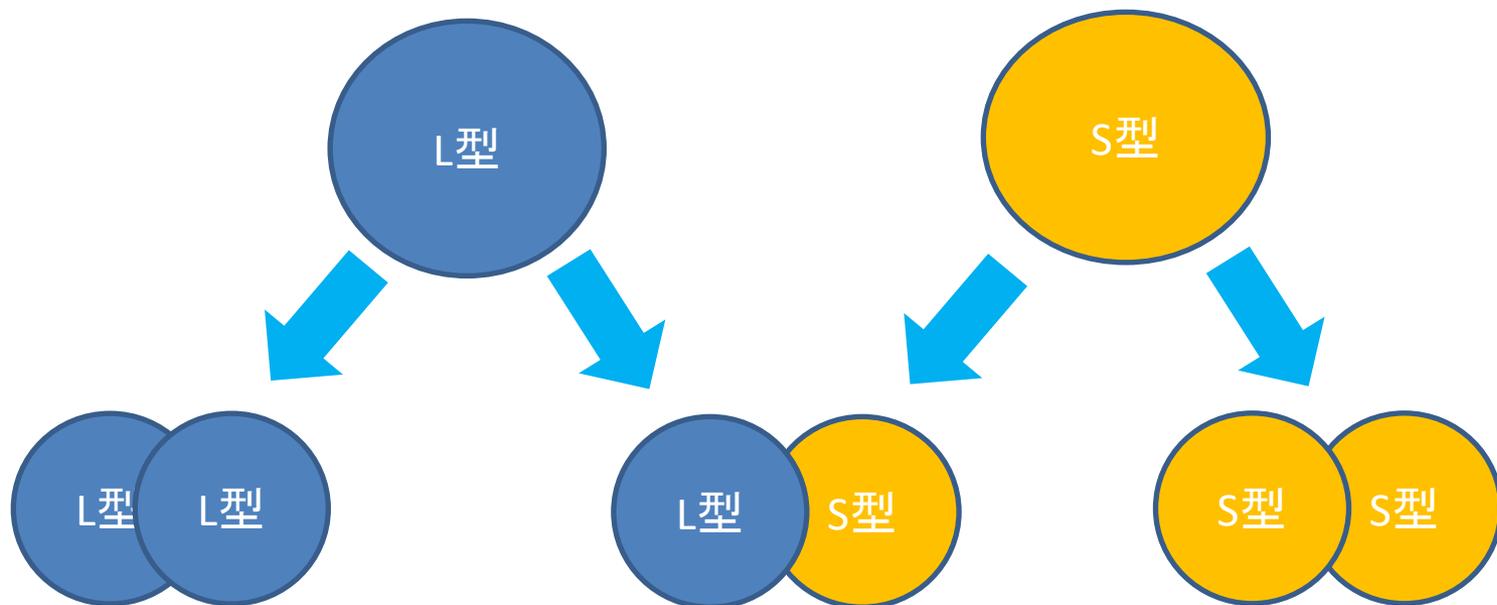
日本人に認知症が多い理由

- ひとつの仮説は、セロトニントランスポーター遺伝子の分布
- 「幸福のホルモン」と呼ばれるセロトニンは、脳内の濃度(セロトニンレベル)が高いと楽天的になり、レベルが下がると神経質で不安を感じやすくなるとされる。
- セロトニンは脳幹で分泌される



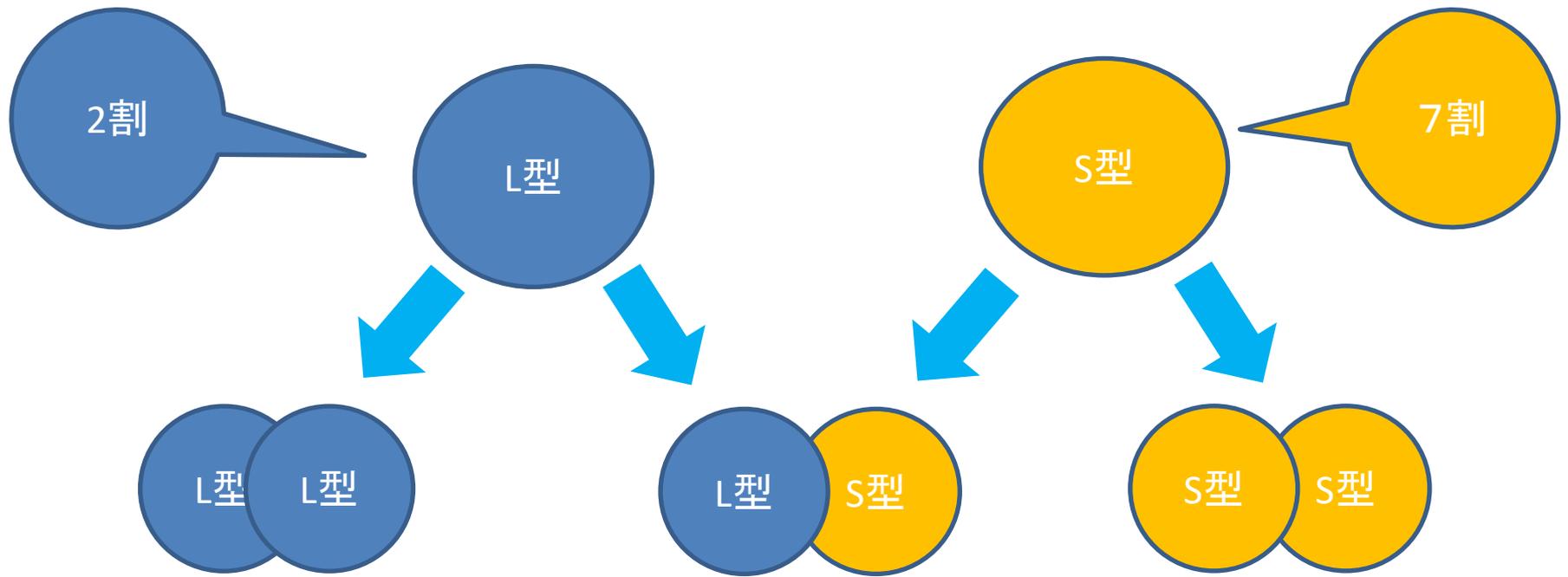
日本人はセロトニントランスポーター が極端に少ない

セロトニンを運搬するトランスポーター遺伝子には、伝達能力が高いL型と伝達能力が低いS型があり、その組み合わせでLL型、SL型、SS型の3つが決まる。



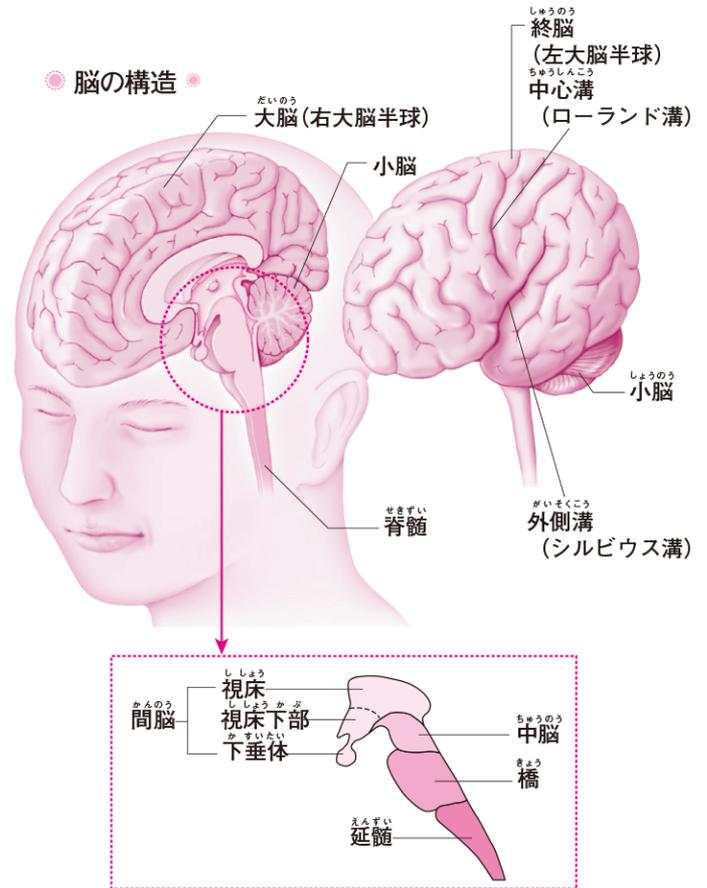
日本人は遺伝的に セロトニンが効きにくい

- この分布は大きな地域差があり、日本人の場合、約7割がSS型で、LL型は2%と世界でもっとも少ない。
- これが、日本人にうつ病や自殺が多い遺伝的な理由だとされている。



復習！解剖学

- 脳は外側を大脳が囲み、中間部・脳の根っこに脳幹というものがあります。この脳幹という部分のなかに、セロトニン神経が存在します。その数はヒトの場合、数万個といわれますが、これは脳全体で140億の神経細胞があるなかのほんのわずかな量です。

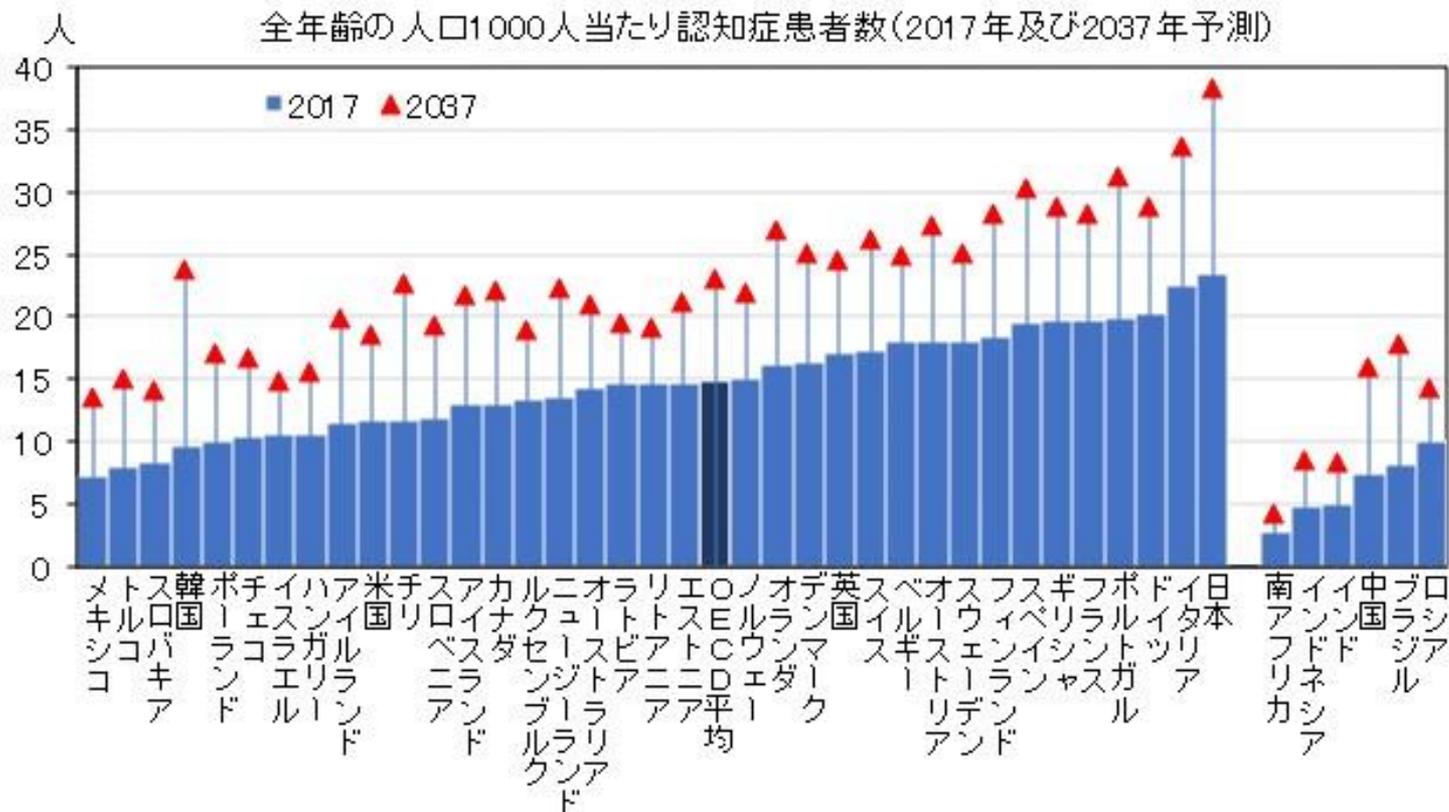


セロトニン↓＝ストレス耐性↓＝精神疾患↑＝認知症のリスク↑

- まずは、脳機能の低下、脳の変性
- 中核症状が起こり
- うつ病や精神疾患
- マイナス思考、ひきこもり、攻撃的、悲観的等の個人性格因子
- 周辺症状(暴言、幻聴、幻覚、徘徊)

認知症は国家レベルの問題

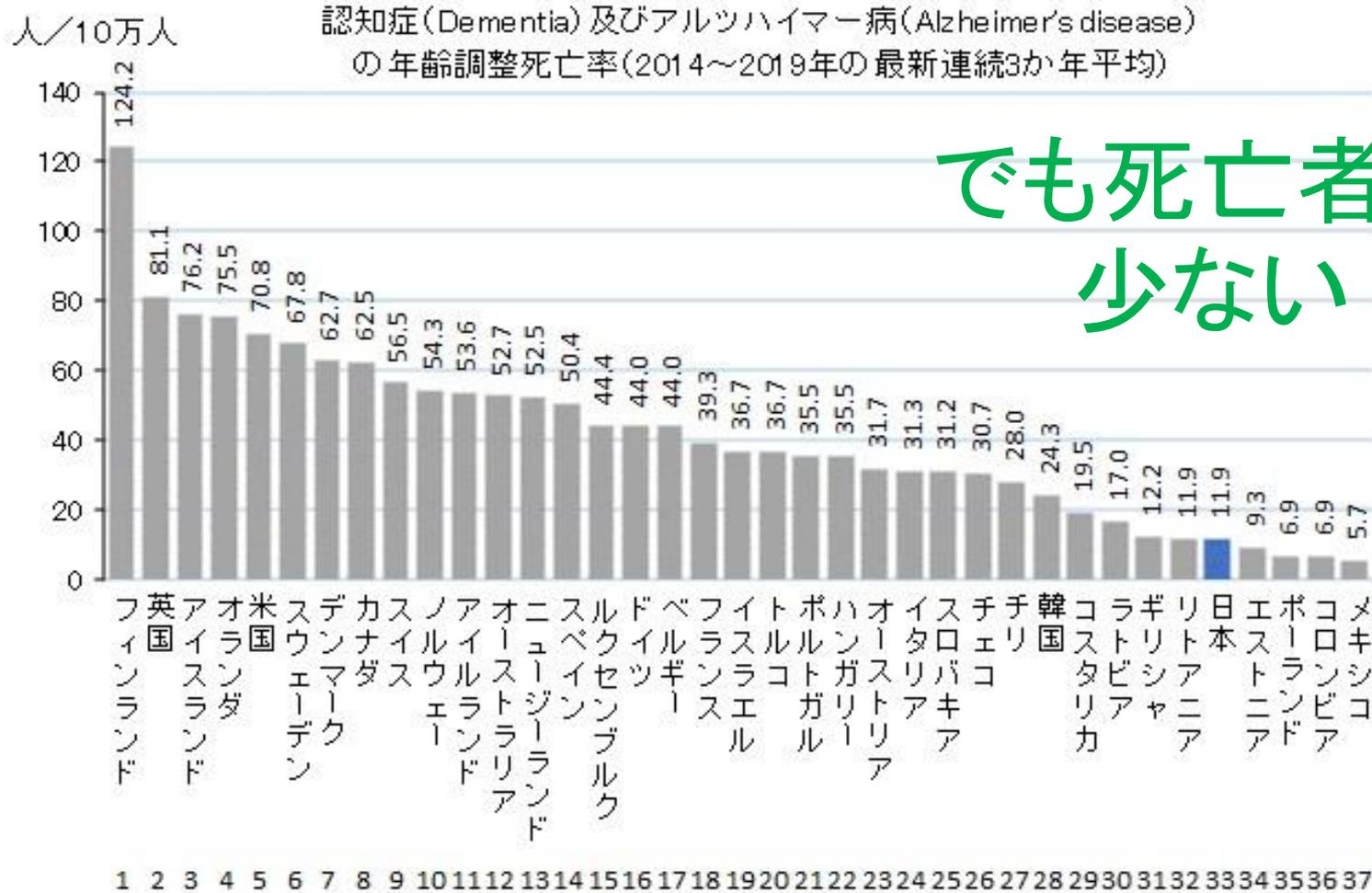
認知症の国際比較



(注) OECD (2018), Care Needed: Improving the Lives of People with Dementiaによる。

(資料) OECD, Trends Shaping Education 2019, Figure 4.3.

認知症死亡率の国際比較(OECD諸国)



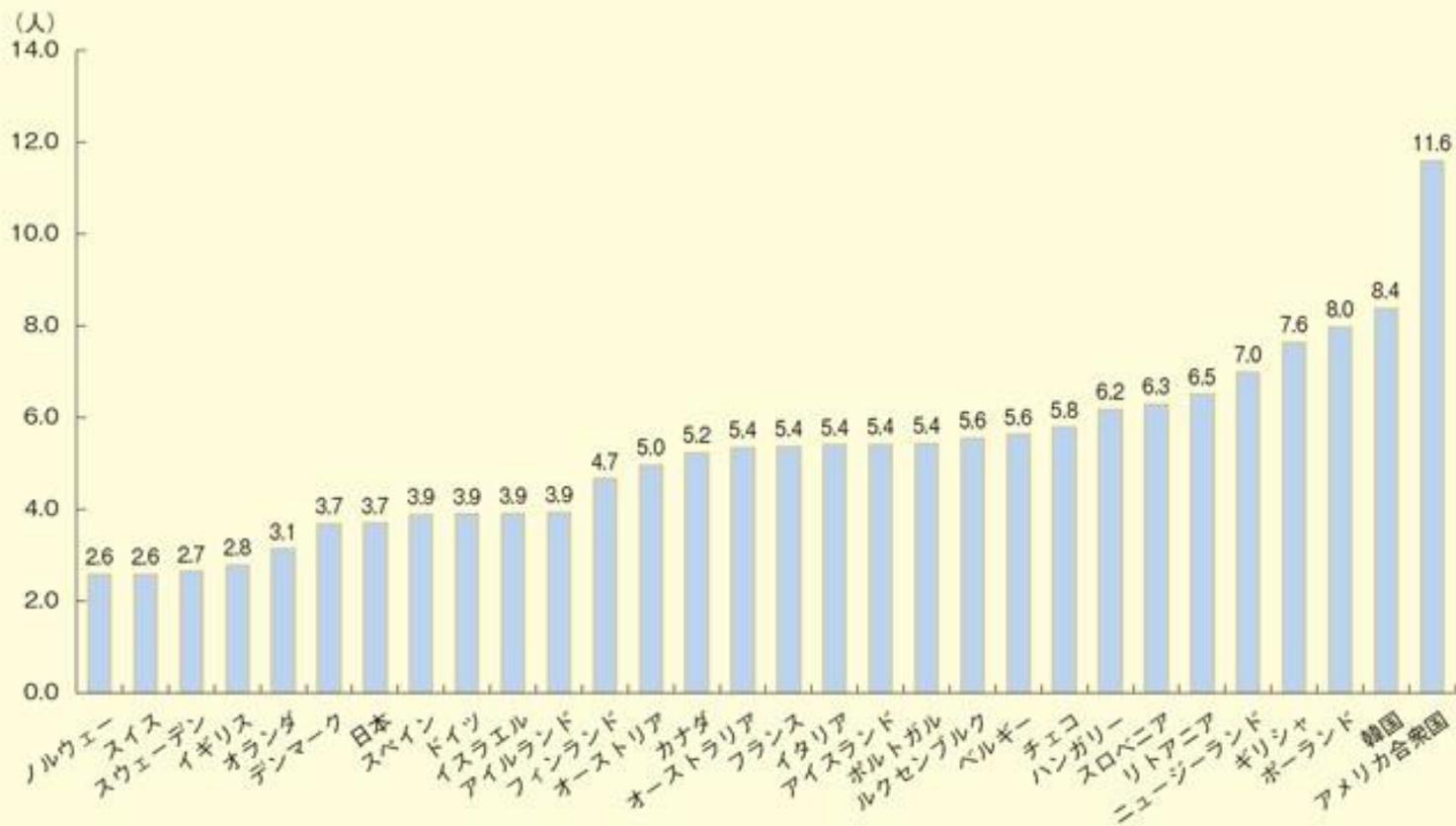
でも死亡者は少ない

(資料) OECD.Stat 死因統計(2022.3.9)

日本の死亡率が低い理由

- 日本は交通事故が少ない
- 高齢者を敬う文化
- 共感力に優れている(助け合いの文化)
- 医療の発達
- 延命治療を積極的に受け入れる

▶ 第1図 人口10万人当たりの交通事故死者数（2016年）



- 注 1 IRTAD資料による。
 2 数値は全て30日以内死者（事故発生から30日以内に亡くなった人）のデータを基に算出されている。
 3 イスラエルの人口は2015年の数値を用いている。

殺人発生率の国際比較

- <https://www.globalnote.jp/post-1697.html>

2021年 殺人発生率

順位	国名	単位：件/10万人	注
1	 ジャマイカ	52.13	
2	 セントルシア	38.96	
3	 ホンジュラス	38.25	
4	 南アフリカ	33.96	1
5	 バリズ	31.25	
6	 セントビンセント・グレナ ディーン	30.67	
7	 セントクリストファー・ネ イビス	29.41	
8	 トリニダード・トバゴ	29.36	
9	 バハマ	29.17	
10	 仏領セント・マーチン島	28.73	5
11	 ミャンマー	28.44	
12	 メキシコ	28.18	
13	 コロンビア	25.67	
14	 ナイジェリア	21.74	2
15	 ブラジル	21.26	
16	 グアテマラ	19.99	
17	 エクアドル	19.41	
18	 ベネズエラ	19.31	
19	 エルサルバドル	17.18	
20	 アンティグア・バーブーダ	17.16	
21	 ガイアナ	16.28	
22	 イラク	15.40	
23	 エクアドル	

日本は調査国154国中
151位と極めて少ない

主要先進国

- 米国40位
- イギリス103位
- フランス104位
- ドイツ118位

新興国

- インド74位
- 中国138位

ところでさあ、OECDって何？

- OECDとはどういう意味ですか？
- OECDとはどのような機構ですか。OECDは、Organisation for Economic Co-operation and Development の略称で、日本語で経済協力開発機構といいます。OECDは、国際経済全般について協議することを目的とした国際機関で、「世界最大のシンクタンク」とも呼ばれています。
- 経済協力開発機構(OECD)は、より良い暮らしのためのより良い政策の構築に取り組む国際機関です。OECDの目標は、あらゆる人々の繁栄、平等、機会、幸福を促す政策を形作ることです。60年に及ぶ経験と知見を活用して、より良い未来の世界を実現するよう努めています。
- OECDは、政府、政策当局、市民と協力して、実証に基づく国際基準を確立し、様々な社会・経済・環境問題の解決策を模索しています。経済実績の改善、雇用創出から、充実した教育の促進、国際的脱税との闘いまで、データと分析、経験の交換、最良慣行の共有、公共政策と国際基準の設定に関する助言を行うための、独自のフォーラムと知識の中核拠点を提供しています。

我々の介入する領域は
心理、精神領域

ここじゃない

認知症の原因 脳機能の変化

- アルツハイマー型認知症
- アルツハイマー型認知症は脳内にたまったアミロイドβと呼ばれる異常たんぱく質によって脳神経が変性し、脳の一部が萎縮する過程で発症する

- 脳血管性認知症
- 脳血管性認知症は、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害によって発症する認知症です

- レビー小体型認知症
- レビー小体型認知症は、レビー小体という異常たんぱく質が神経細胞にたまることで発症する認知症です。

- 前頭側頭型認知症
- 前頭側頭型認知症は、前頭葉と側頭葉で神経が変性して発症する認知症です。

脳機能の変化から中核症状へ

ここから関わりを始めて

治療プログラムを立てていく

- 記憶障害 何度も同じことを話す。ものの位置や約束を忘れてしまう
- 実行機能障害 計画や段取りを立てられなくなる
- 見当識障害 時間や場所がわからなくなる。季節に合わせた服が選べない
- 失語 言語の理解・表出が難しくなる
- 失行 運動機能に問題はないものの、適切な行動をとれなくなる
- 失認 視覚機能に問題はないものの、目の前のものが何か認識できなくなる

中核症状へ個人因子が影響

ここ！！

ここに治療を集中させる！！

- うつ病 → 直接認知症へ
- 精神疾患（統合失調、発達障害、双極性障害）
- 生まれた環境
- 育った環境
- 親から受ける教育
- 物の考え方、価値観
- 性格（短期、穏和、ひきこもり、攻撃的、受容的）

中核症状+個人因子＝周辺症状

中核症状や周辺症状があいながらも、セロトニン不足から来る不安を解消し、安心、安全、安楽な生活環境に導いていく。これがリハビリの治療です

- **抑うつ**：気分が落ち込み食欲不振や不眠などの症状が出る
- **徘徊**：今いる場所や行き先がわからなくなり、歩き回る
- **幻覚・妄想**：ありえないものを現実を感じる、誤った認識を間違いないと思ひこむ
- **暴言・暴力**：感情のコントロールができず、不満や不安により暴力や暴言が現れる
- **介護拒否**：介護の意味を理解できず介護を拒否する

セロトニンがなくても 日本人は認知症を克服できる

- セロトニンがなくても
- 世界と比べてネガティブ志向、不安思考、楽観的になれなくても
- 日本人は世界と比べても認知症を克服できる民族です。
- なぜなら、

勤勉だから



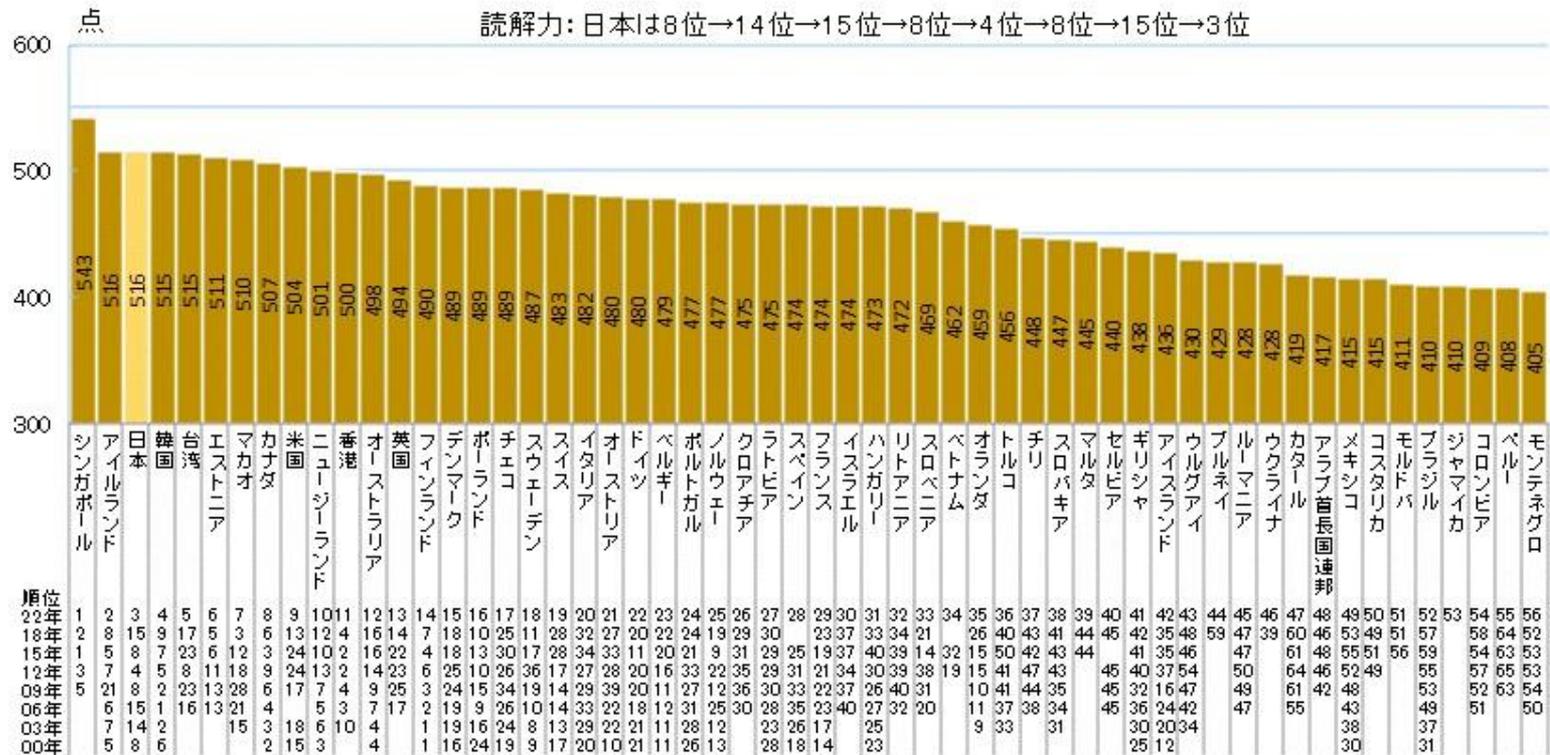
頭が良いから



S型遺伝子有意だからこそ勉強する 意思が高くなる

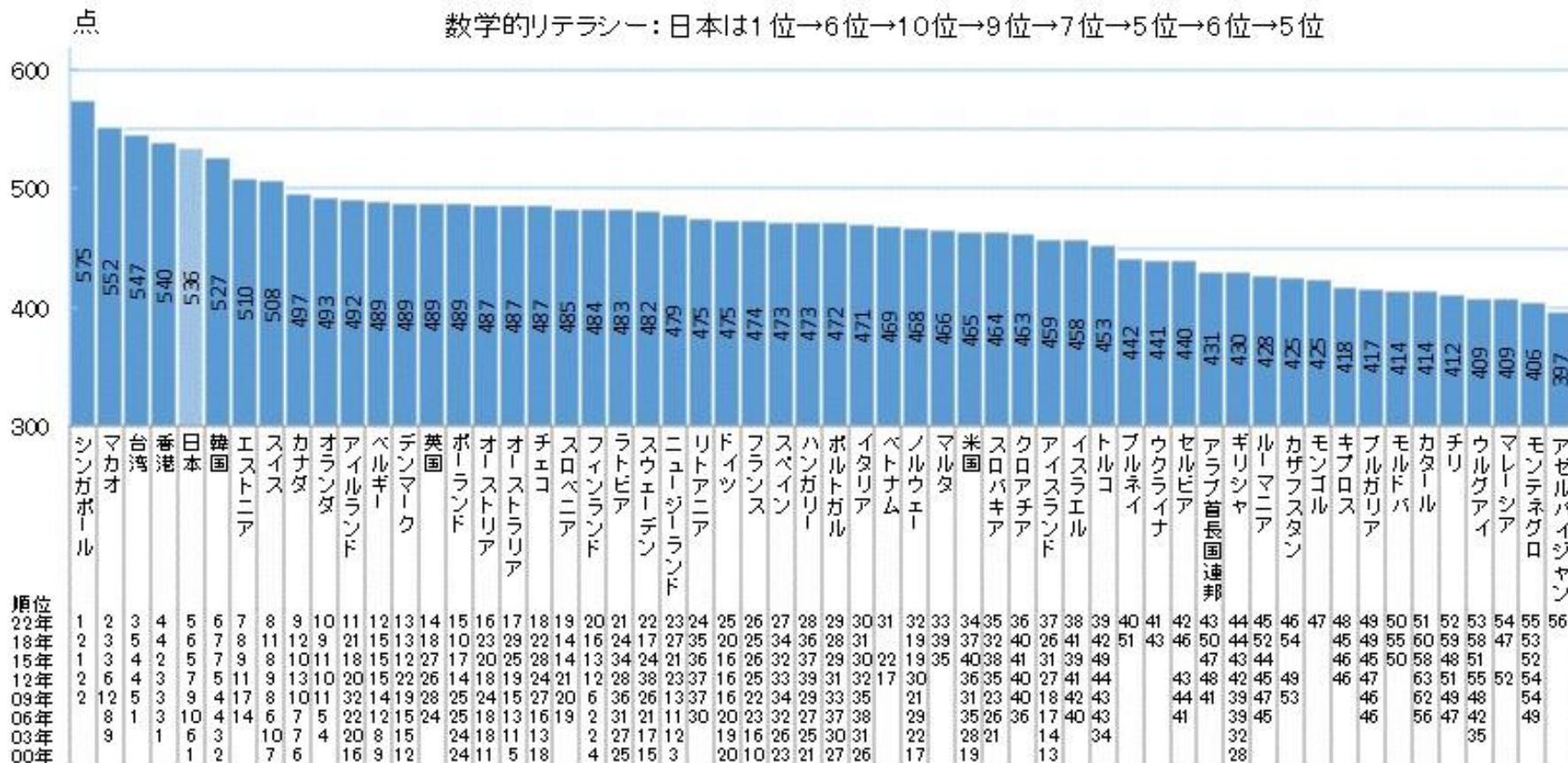
- 不安感が強いひとは将来のことを心配して、いまから備えておこうとする。
- 逆に過度に楽天的だと、先のことを考えるよりいまを楽しもうとする。
- こうした遺伝的傾向が東アジアの国々に共通する
- 実際に、アジア圏の人は、国際比較で試験の成績が高いことも説明されている。

学力の国際比較(2022年)

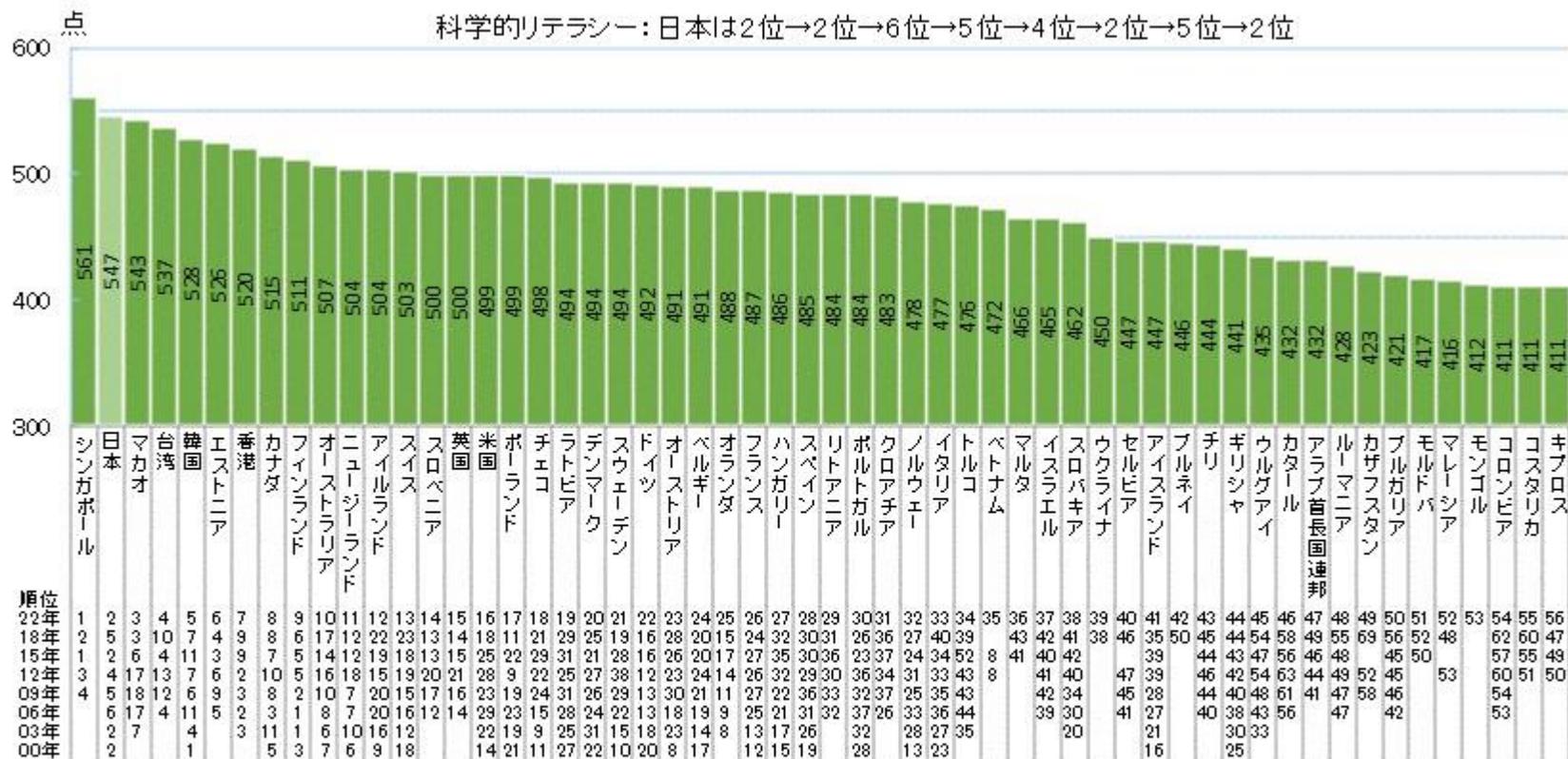


数学的な思考もトップクラス

数学的リテラシー：日本は1位→6位→10位→9位→7位→5位→6位→5位



科学的な思考もトップクラス

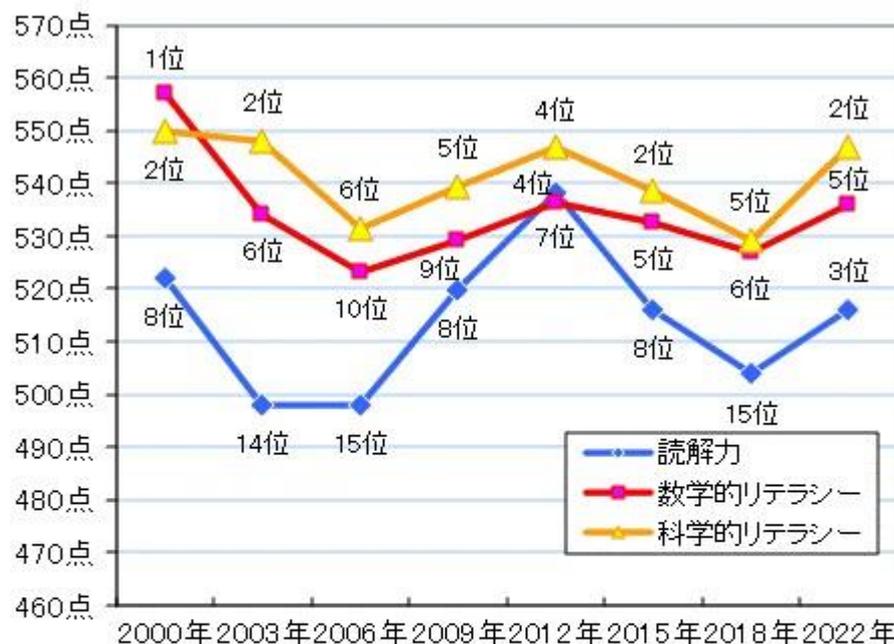


(注) 2022年調査は81か国・地域から約69万人の15歳男女(日本では高校1年)が参加。図では56位までを表示。2009～18年に参加し1位であることが多かった北京・上海・江蘇・浙江は今回不参加。アゼルバイジャンはバクーのみ。15年のアルゼンチンはブエノスアイレス、09年のアラブ首長国連邦はドバイの順位。比較対象は00年31、03年40、06年57、09年65、12年65、15年70、18年78(読解力だけ77)、22年81か国・地域。

(資料) OECD生徒の学習到達度調査(PISA: Programme for International Student Assessment)

日本は世界の学力を牽引している

PISA国際学力テストにおける日本の成績の推移



		2000年	2003年	2006年	2009年	2012年	2015年	2018年	2022年
点数	読解力	522点	498点	498点	520点	538点	516点	504点	516点
	数学的リテラシー	557点	534点	523点	529点	536点	532点	527点	536点
	科学的リテラシー	550点	548点	531点	539点	547点	538点	529点	547点
順位	読解力	8位	14位	15位	8位	4位	8位	15位	3位
	数学的リテラシー	1位	6位	10位	9位	7位	5位	6位	5位
	科学的リテラシー	2位	2位	6位	5位	4位	2位	5位	2位

不安感と引き換えに 高い知能を手に入れた

- そしてこのことが、東アジアの国々で封建的な政治・社会制度が発達し、きびしい規律の組織が好まれる理由とも考えられる。
- 儒教はSS型の遺伝子型に適した思想だったからこそ、東アジア全域に広まった

言葉の説明

「PISA」とは、

国際機関であるOECD（経済協力開発機構）が行う世界的な学力調査です。

Programme for International Student Assessmentの略称で、日本語の正式名は「OECD生徒の学習到達度調査」です。

リテラシーとは、

もともと「読み書きの能力」

を意味する言葉ですが、現在の使われ方としては

「ある分野に関する知識や能力を活用する力」を指すことがほとんどです。

ビジネスの場では

「情報を適切に理解、解釈して活用すること」というニュアンスで使われることが大半となっています。